

丹七美 「ふるさと納税と山形県金山町の PR ―若者だけがターゲットではない！―

私の故郷である山形県金山町は、本当に小さな田舎町であるが、その街並みや景観は、町を訪れる人々に「こんなきれいな田舎があったのか」という印象を与え、また金山町民自らが誇りを持つことができるものだと言える。そんな街並みを維持するための活動や、町を外部へ PR するための取り組み内容は、小さな町の取り組みとは思えないほど素晴らしく高く評価されている。その中の一つに、「ふるさと納税」というものがある。今回、私は金山町役場が発行する『金山町広報 6月号』と役場の総合政策係の神沼さんとの電話取材の内容を元に、この取り組みと成果について述べていくとする。

まずこの「ふるさと納税」とは、例えば町民や金山町に好意を持ってくださった観光客が、1万円を金山町に寄付すると2千円以上8千円未満が控除される、寄付してくれたお礼として町の特産品5千円以上を納税者に贈呈するというものである。それによって納税者が得をするだけでなく、町の産業の PR にもなるという訳である。更に、町の特産品を貰った観光客がその取り組みを気に入ると、彼らは金山町 HP のリンクをブログや Twitter などの SNS を通して話題に挙げるため、自然と「ふるさと納税」が外部に知れ渡り、金山町自体が PR されているのである。さらにそれだけではない。納税者が一番知りたいのは、「納めたお金の使い道」である。そこで、金山町では、まず納税者自身に納めた税の希望する使い道を選んでもらい、例えば彼らが「人材育成」という項目にチェックをつけたとすると、次はその「人材育成」をもっと細かな事業に分けて、使い道を検討するのである。そして、実際の使い道をまとめた資料を納税者全員に郵送で送るという方法をとることで、今後も納税者に安心して税を納めてもらうという方法をとっている。そのおかげで年々納税件数も上がり、今年は現時点で納税件数が1042件と好調なようだ。

加えて、私は金山町出身の若者の故郷愛が高く、「戻って来たい」という若者が県内や県外の中でも群を抜いて多いことを知っていた。その為、私はこの「ふるさと納税」が若者の余暇の領域にどう使われているかを神沼さんに質問した。すると彼からは「色々な場所で、若者がターゲットになっているが、もちろんそれは大切です。しかし、金山町は50代を過ぎた人々が戻って来られる町づくりを目指しているんですよ。それは、ある程度技術と知恵があり、今までの仕事を通して貯めたお金があり、田舎に対して求める内容（仕事の場所や田舎に求める都会感）がそれほど大きくないと考えるからです。今の若者には最終的に戻ってきてもらえればいいです。若者はやりたいことも求めるものも大きいので、まずは都会に出てもらってたくさん学んで欲しいと思っています。決して町づくり＝今いる若者のためという訳ではないです。戻って来たいというきっかけづくりの一つとしてこの『ふるさと納税』がありますね。」という返答を頂くことができた。

今ではこの「ふるさと納税」は金山町の代表的な PR 戦略である。彼の言葉によって私の故郷愛が更に高まるとともに、是非とも私も納税をしようと感じた。